

## ねぶた（山車燈籠）

祭りの名前そのものであり主役でもあるねぶた山車は、最大で高さ5メートル、幅9 x 7メートルで、重量は最大4トンにもなる巨大なもの。設計図の草案作成から実際のねぶた製作まで1年がかりというねぶた山車は、毎年22台祭りに登場します。青森県には、有名な弘前市の祭りを含め複数のねぶた祭りがありますが、青森ねぶた祭りが名を知られるゆえんはねぶた山車の絵ではなく、実在の人物を題材にする点です。

ねぶた山車にはそれぞれのスタイルがありますが、全て伝統的な外観を踏襲しています。山車はいずれもねぶた師（ねぶた職人）の手作り。制作の軸となる技術は下絵描き、組み立て、色つけで、ねぶた師はこれを全て極める必要があります。題材の人物は多くの場合、歴史的事件、歌舞伎、あるいは古代の伝説から来ています。人物の顔はどれも大きくて印象的な眉を持ち、背景は原色をあしらっています。背景は点描で描かれることもあります。ねぶた山車はどれもライトアップされており、暗い夜空によく映えます。ねぶた山車の中には、パステルピンクの桜の花を描いて自然を表現したものや、荒れ狂う戦争の一幕を朱色で表現したものもあります。

夜にライトアップされたねぶた山車の様子は、観客の頭上にこの世ならぬ巨大な生き物がそびえ立つがごとし。ねぶた山車の移動は、引き手と呼ばれる運搬チームによって行われます。引き手は扇子持ちと呼ばれる指揮者の指示に従います。ねぶた山車にダイナミックな動きをつけたり、個性豊かで緻密な装飾が施されたねぶた山車の四方を観客に見せたりするのは扇子持ちの役目です。